

芸術におけるケアの基本構造——創造と鑑賞の両面から

秋丸知貴

上智大学グリーンケア研究所特別研究員

(1) なぜ今「グリーンケアと芸術」なのか？

- ・なぜ今「グリーンケア」なのか？
- ・島菌進・鎌田東二・佐久間庸和『グリーンケアの時代』
- ・合理主義の発達（貨幣経済＋科学技術）
 - ⇒ 近代都市（核家族化・孤立化＋世俗化）
 - ⇒ 地域共同体の崩壊＋宗教・儀式の凋落
 - ⇒ 悲哀を癒す文化の衰退 ⇒ 自覚的復興 ⇒ グリーンケアへの注目
- ・宗教ほど厳格ではなく受け入れやすい・個人の内面を癒し人々を親和させる
 - ⇒ 代替物・補完物としての芸術への注目

(2) 芸術によるケアの基本構造

- ・芸術によるケア ⇒ 創造＋鑑賞
- ・芸術作品 ⇒ 生理：形式（色＋形）＋心理：内容（画題）
- ・S・フロイト「空想による快感情」 ⇒ 美
- ・S・ギーディオソ「主観的葛藤の客観的对象化」 ⇒ 美＋醜
- ・一見醜くても心情の的確な表現はヒーリング効果を持つことがある

(3) 芸術によるケアの理想的サイクル

- ・芸術家による創造（私的作品）⇒ 他者による鑑賞（公的名作）……代弁による共感
- ・他者からの鑑賞（社会的賞賛・経済的評価）⇒ 芸術家の自己肯定感の向上

(4) 芸術創造の精神状態

- ・S・フロイト「詩人と空想すること」
 - 意識的自我による現実適応の失敗 ⇒ 本能的無意識への強制退行
 - ⇒ 精神障害（妄想） ⇒ 詩人（洗練された妄想＝空想）
- ・C・G・ユング『個性化とマンダラ』
 - 意識的自我が自制的に無意識へ退行 ⇒ 創造性の賦活（エランベルジェ「創造の病」）
 - ⇒ 無意識的本能の意識化（＝イメージ化） ⇒ 心情を的確に表現
 - 意識的自我が自制的に集合的無意識へ退行 ⇒ 元型
 - ⇒ マンダラの造形 ⇒ 普遍的な心情を的確に表現
- ・E・ノイマン『芸術と創造的無意識』
 - 意識的自我が自制的に集合的無意識へ退行 ⇒ 「中心向性」（聖性への感受性）